

議決権行使レポート

証券コード 9531

会社名 東京瓦斯株式会社

	賛成	反対	棄権
第1号議案 取締役9名選任の件			
内田 高史 氏	○		
笹山 晋一 氏	○		
比護 隆 氏	○		
高見 和徳 氏	○		
枝廣 淳子 氏	○		
引頭 麻実 氏	○		
大野 弘道 氏	○		
関口 博之 氏	○		
淡輪 敏 氏	○		

上記の推奨をした理由

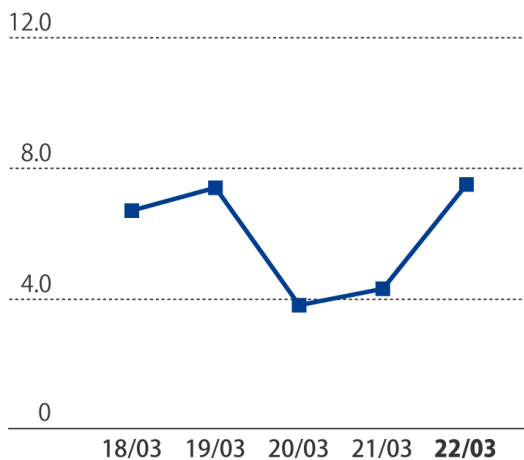
東京瓦斯の財務状況について

各候補者の選考に入る前に、東京瓦斯の財務状況を確認しておく。

東京瓦斯の ROE の過去 5 年の推移は以下グラフ 1 の通り。20,21 年に収益性が低下したものの、22 年には盛り返しているため、収益性に問題はないと言える。

政策保有株式額の純資産額に対する割合は、4.09%と低く、問題があるとは言えない。

(単位：%)



政策保有株式額	
上場	43384
非上場	7961
純資産額	1256566
純資産額に対する 制作保有株式額	4.09%

表 1

グラフ 1

選出可否の基準について

ISSの選出基準を参考とする。なお、東京瓦斯は指名委員会等設置会社であるため、参照する基準は指名委員会等設置会社向けのものとする。ISSの基準は以下の通り。

- ISSによると、「株主総会後の取締役会に占める社外取締役の割合が3分の1未満の場合、経営トップである取締役」に反対票を投じるとしている。同社は9名の取締役候補のうち6名が社外取締役であり、この基準を満たさないため、適切である。
- ISSによると、「株主総会後の取締役会に女性取締役が一人もいない場合、経営トップである取締役」に反対票を投じるとしている。東京瓦斯は、枝廣淳子氏と引頭麻実氏が女性であり、この基準を満たさず、適切である。

以上に加え、反対票を投じる基準として、以下の三点を設定している。

- 親会社や支配株主を持つ会社において、株主総会後の取締役会に占めるISSの独立性基準を満たす社外取締役の割合が3分の1未満の場合、またはISSの独立性基準を満たす社外取締役が2名未満の場合、経営トップ及び指名委員である取締役
- 株主総会後の取締役会の過半数が独立していない場合、ISSの独立性基準を満たさない社外取締役
- 前会計年度における取締役会の出席率が75%未満の社外取締役、及び監査委員会の出席率が75%未満の監査委員である社外取締役

以上の三点については、各候補者ごとに評価する。さらに、候補者の経歴やスキルについても評価し、問題がないかを評価する。

参考:ISSの独立性基準

ISSの独立性の基本的な考え方は「会社と社外取締役や社外監査役の間に、社外取締役や社外監査役として選任される以外に関係がないこと」である。日本企業においては、たとえば、下記のケースでは多くの場合、独立していないと判断される。

- 会社の大株主である組織において、勤務経験がある
- 会社の主要な借入先において、勤務経験がある
- 会社の主幹事証券において、勤務経験がある
- 会社の主要取引先である組織において、勤務経験がある
- 会社の監査法人において、勤務経験がある
- コンサルティングや顧問契約などの重要な取引関係が現在ある、もしくは過去にあった
- 親戚が会社に勤務している
- 会社に勤務経験がある
- 会社が政策保有目的で保有すると判断する投資先組織において、勤務経験がある

1. 内田高史 氏

内田氏の取締役再任に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

内田氏は東京瓦斯での勤務経験があり、独立ではない。一方で、保有する東京瓦斯の株式は26,000株で、持ち株比率は10%を超えず、取締役会に対して過度な影響力は持たないため、社内出身者の取締役選出としては問題がない。

出席率

内田氏の2022年度における取締役会の出席率は100%で、問題がない。

経歴

2023年までは同社の代表執行役社長を務め、電力、ガスの小売り全面自由化といった変動に円滑に対処している。ROEの変動(グラフ1)を見ても、安定的に収益を出しており、懸念点はないと思われる。

2. 笹山晋一 氏

笹山氏の代表執行役社長の選出に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

内田氏は東京瓦斯での勤務経験があり、独立ではないものの、保有する東京瓦斯の株式は13,700株で、持ち株比率は10%を超えず、取締役会に対して過度な影響力は持たない。したがって、社内出身者の取締役選出としては問題がない。

出席率

笹山氏は新任であり、データがない。

経歴

企画、電力、DX関連の業務経験がある。グループ経営ビジョン Compas2030の策定にも関わったという。

取締役として、社の目標と向うべき場所を理解していることは重要である。よって、グループ経営ビジョンの策定に関わり、よく理解しているであろう笹山氏の人選は適切と考える。

3. 比護隆 氏

比護氏の監査部担当の取締役としての選出に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

比護氏は東京瓦斯での勤務経験があり、独立ではないものの、保有する東京瓦斯の株式は7,700株で、持ち株比率は10%を超えず、取締役会に対して過度な影響力は持たない。したがって、社内出身者の取締役選出としては問題がない。

出席率

比護氏は新任であり、データがない。

経歴

比護氏は1986年に東京瓦斯に入社して以降、2015年には財務部長を務めるなど、財務の

面で東京瓦斯を支えてきた。その他、資源や企画、営業関連の業務経験も有しているという。以上の点を考慮すると、比護氏の選出は適当であると考えられる。長年にわたり東京瓦斯の財務を担当しているため、監査にも適していると考えられるためである。

4. 高見和徳 氏

高見氏の社外取締役再任に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

高見氏は東京瓦斯での勤務歴が役員としてのもの以外にない。さらに、主要な株主や借入先といった利害関係のある会社での勤務歴がないため、独立していると言える。また、保有株式数は1400株であり、10%を超えず、過度な影響力を持たない。以上の点より、高見氏は東京瓦斯に対して独立していると言える。

出席率

高見氏の2022年度における取締役会の出席率は100%で、問題がない。

経歴

松下電気産業株式会社(現パナソニックホールディングス株式会社)にてキャリアを積んでいる。2004年には同社のナショナルマーケティング本部長に就任するなど、マーケティングの能力に長けている。

このマーケティング能力は持続的に収益を上げるために重要なものであり、東京瓦斯の掲げる経営戦略の推進に役立つ。したがって、高見氏の再任に賛成する。

5. 枝廣淳子 氏

枝廣氏の取締役再任に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

枝廣氏は東京瓦斯での勤務歴が役員としてのもの以外にない。さらに、主要な株主や借入先といった利害関係のある会社での勤務歴がないため、独立していると言える。また、保有株式数は700株であり、10%を超えず、過度な影響力を持たない。以上の点より、枝廣氏は東京瓦斯に対して独立していると言える。

出席率

枝廣氏の2022年度における取締役会の出席率は100%で、問題がない。

経歴

枝廣氏は翻訳者、通訳者としてキャリアをスタートし、その後環境ジャーナリストに転身した。イライ数々のNGOや有限会社を率い、エネルギーやサステナビリティに対する知見を育んできた。

枝廣氏の知見は、東京瓦斯の掲げる経営ビジョン、Compass2030で掲げられている目標の一つである「CO2 ネット・ゼロをリード」の達成に不可欠であると考えられる。したがって枝廣氏は東京瓦斯に不可欠な人材であり、再任いただくべきだと考えた。

6. 引頭麻実 氏

引頭氏の取締役再任に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

引頭氏は東京瓦斯での勤務歴が役員としてのもの以外にない。さらに、主要な株主や借入先といった利害関係のある会社での勤務歴がないため、独立していると言える。また、保有株式数は 900 株であり、10%を超えず、過度な影響力を持たない。以上の点より、引頭氏は東京瓦斯に対して独立していると言える。

出席率

引頭氏の 2022 年度における取締役会の出席率は 100%で、問題がない。

経歴

大和証券でキャリアをスタートさせ、金融分野のアナリスト、アドバイザーとして結果を残してきた。

このような能力は東京瓦斯の経営の推進と監査に大いに役立つものだと考えられる。よって、引頭氏の取締役再任に賛成する。

7. 大野弘道 氏

大野氏の取締役再任に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

大野氏は東京瓦斯での勤務歴が役員としてのもの以外にない。さらに、主要な株主や借入先といった利害関係のある会社での勤務歴がないため、独立していると言える。また、保有株式数は 0 株であり、10%を超えず、過度な影響力を持たない。以上の点より、大野氏は東京瓦斯に対して独立していると言える。

出席率

大野氏の 2022 年度における取締役会の出席率は 100%で、問題がない。

経歴

大野氏は 1979 年に味の素株式会社に入社し、以来同社の財務部長や取締役を歴任した。食品産業の役員として経験で育まれた、広い視点と高い見識に基づいたマネジメント能力は東京瓦斯においても重要だと考えられる。よって、大野氏の再任に賛成する。

8. 関口博之 氏

関口氏の取締役再任に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

関口氏は東京瓦斯での勤務歴が役員としてのもの以外にない。さらに、主要な株主や借入先といった利害関係のある会社での勤務歴がないため、独立していると言える。また、保有株式数は 0 株であり、10%を超えず、過度な影響力を持たない。以上の点より、関口氏は東京瓦斯に対して独立していると言える。

出席率

関口氏の 2022 年度における取締役会の出席率は 100%で、問題がない。

経歴

関口氏は 1979 年に日本放送協会に入局し、以来記者、解説委員として経験を積んできた。この経験を通してエネルギーやサステナビリティをはじめとした、経済一般に対して鋭い着眼力と深い洞察力を育んだという。

私は関口氏の再任に賛成である。以上で述べたような能力は、CO2 ネット 0 を目指す同社において非常に重要であると考えからである。

9. 淡輪敏 氏

淡輪氏の社外取締役としての選出に賛成する。理由は以下の通り。

独立性

淡輪氏は東京瓦斯での勤務歴が役員としてのもの以外にない。さらに、主要な株主や借入先といった利害関係のある会社での勤務歴がないため、独立していると言える。また、保有株式数は 0 株であり、10%を超えず、過度な影響力を持たない。以上の点より、淡輪氏は東京瓦斯に対して独立していると言える。

出席率

淡輪氏は新任であり、データがない。

経歴

淡輪氏は 1976 年に三井東圧化学株式会社(現三井化学株式会社)に入社し、以来同社の部長や代表取締役社長、会長を歴任した。

化学メーカーの企業経営者としての経験は東京瓦斯の企業経営にも活かされると考えられる。ガス分野以外の経営者の視点を取り入れることができることは、東京瓦斯の経営に多様性をもたらす良い効果を持つと考えられる。よって、淡輪氏の選出に賛成する。